

令和6年度 第2回学校運営協議会 議事録

記録者 中谷 知 野原 将宏

1. 日時・場所

令和6年10月30日(水) 18時～ 新三丘にて

2. 開催方法

対面およびオンラインによる開催

3. 学校運営協議会(定時制部会)名簿

1) 学校運営協議会委員

会長	岩野 豊治
副会長	大堀 彰子
委員	吉岡 哲郎
委員	福岡 千晶(欠席)
委員	吉澤 省之
委員	雪本 理江

2) 学校運営協議会事務局

准校長	佐保田 真一
教頭	中村 有希
教務主任	日高 良友
生徒指導主事	坂下 一輝
進路指導主事	石田 淳子
教諭	中谷 知
教諭	野原 将宏

3. 議事内容

1) 准校長の挨拶

2) 協議会委員および事務局紹介並びに会長挨拶

学校運営協議会委員は1名は遅刻

3) 第1回学校運営協議会以降の本校の動向説明

[准校長より]

・学校経営計画の実施状況について

[教頭より]

・前期授業アンケートについて

・中学校訪問について

・学校説明会について

・校外学習について

- ・修学旅行について
- ・大阪府高等学校定時制通信制秋季発表大会について
- ・ふるさと堀探検隊について
- ・令和7年度使用教科用図書採択結果について

[教務主任より]

- ・在籍数報告
- ・出席状況について

[生徒指導主事より]

- ・令和6年度懲戒指導のまとめ
- ・令和6年度部活動加入状況
- ・令和6年度令和6年度定期健康診断受験率および保健室来室者数

[進路指導主事より]

- ・令和6年度進路希望状況(10月21日付)
- ・今後の取り組みについて

5. 議決事項

- | | | |
|--------|--------------------------------|-------|
| [1号議案] | 令和6年度学校運営協議会 委員、事務局員と会長・副会長の選任 | 資料1-1 |
| [2号議案] | 令和6年度学校運営協議会 実施要項について | 資料1-2 |
| [3号議案] | 令和5年度学校経営計画及び学校評価について | 資料2-1 |
| [4号議案] | 令和6年度学校経営計画及び学校評価について | 資料2-3 |
| [5号議案] | 令和6年度教科用図書の選定について | 資料3-1 |
| [6号議案] | 第1回学校運営協議会資料について | 資料4-1 |
| [7号議案] | 各部からの報告について | 資料5~7 |
| [8号議案] | 協議「本校の現状と課題を踏まえた今後の在り方」について | |
| [9号議案] | 学校運営協議会の今後の実施予定について | 資料8 |

なお、上記〔1号議案〕～〔9号議案〕は、全委員の賛成により承認された。

6. 協議「本校の現状と課題を踏まえた今後の在り方」について

委員A: 資料2-2の外国語教育について、英語の目的、どういう力をつけさせたいか。
目指す子ども像は、英語で仕事をするとか、どのような姿を目指しているか。

事務局A: Can-doリストに目指すべき技能が記載されているように、学年によっても異なるが、ペアワークなどを通じて英語でのコミュニケーションも身に付けさせる。
また、学力差が大きいので、能力に応じた3展開で授業を進めている。

事務局B: 義務教育の部分を学び直すところから始めている。高校の部分ではワークを通して英語で話をする態度を育成する。4技能の深いところまでいなくても、定時制生徒ができる部分に触れさせるところをポイントとし、英語に触れる機会を増やしている。

委員B：教室に張り出されているアルバイトの斡旋について、本校生徒にとってアルバイトの経験は意味があるか、また就職の定着との関係はあるか。

事務局C：5～6月にかけて企業訪問に行くが、就職の定着率は統計を取っていない。
アルバイトを経験した生徒のほうが、面接等でより多く表現できる傾向にある。
いやな思い、辛い思いをたくさん経験しているため、定着率が良い印象がある。
学校にいただけでは生徒の社会的成長が見込めないこともあって、本校ではアルバイトを推奨している。アルバイトをする生徒のほうがハローワークのサポートも受けやすい。

委員B：アルバイトを通して、お金のありがたみを理解し感謝を受けながら成長するのでは。
アルバイトを経験した生徒のほうがユースサポートセンターとしても指導しやすい。

委員C：働きながら学び直しをしている生徒の数は。

事務局D：40代の生徒が一人在籍しています。

委員C：昔の定時制には色々な立場の生徒が在籍していて、年上の同学年も多かった。
色々な年代の方と接しながら、社会に出ていくことが多かったと思う。
今ほど引きこもりの生徒もいなかったと感じている。

委員D：アルバイトは私の子どもにとっても良い影響を与えていると感じている。
通帳の残高だけではなく、良い生活リズムをもたらし、仕事を任せられるという
責任感が生まれている。世間の大人に仕事を任されて責任感が育っている。

委員C：アルバイトをしている生徒の数は。

事務局C：年に4回調査をとっているが次回に集計をとる予定でいる。職種としては、飲食やコンビニが多い印象を受けている。

委員D：出席日数に関連して、本校生徒には「自分がここの生徒なのだ」という所属感が強い印象を受けている。出席が少ないにもかかわらず、attachmentや既知感、所属感が育まれている。これは本校の伝統的なものなのか、何か取り組みがあつてのものか。

事務局D：資料3-3-3には保健室の来室人数が挙げられている。教室にいるしんどさがあると思うが、保健室に行って落ち着くことで頑張れている。「ここにいてもよい」という安心につながっているのではないか。先生方にも理解のある先生が多いのもある。

委員D：親にも見放された生徒がいる状況の中、生徒に寄り添いながら話を聞いている様子が伝わってくる。先生方の温かさ、先生に話を聞いてもらえるという安心感から、ここにいてもいいという意識が芽生えているのではないか。また、ただ話を聞いてくれるだけではなく、自分に対して期待を持たせてくれるような、先が見えるような指導がなされているのではないか。

委員B：学校は生徒に対してアウトプットを求めているか。
定期考査などを求められると急にしんどさを感じる生徒も多いと思われるが。

事務局D：テストはあるものだという意識で生徒はいる。テストをアウトプットとは捉えていない。

委員B：テストはアウトプットではないというのは驚き、目からうろこの感じがする。テストを受けて点数が取れた、それがやる気や頑張りにつながっているのだと感じる。
話はそれだが、主権者教育、つまり政治に興味を持たせることに関しての取り組みは、18歳で1票を持つことに対してどのような指導がされているか。

事務局B：市役所から投票箱を借りて実際に投票を体験してみたり、投票に関係する模擬授業を行ってもらったりすることで、一定の効果があるように感じている。

委員B：全日制の生徒よりも、社会にcommitしている生徒は多いのではないか。

事務局C：社会の公共の授業ではそういった内容も取り上げている。政治的な部分は公務員として制限されることも多いが。

委員B：日本のことを決めるのは日本人なのに、今もそれがおろそかにされている状況が続いているように思われる。定時制の生徒が社会に向き合いながら、そのような意識を持つことも大切だと感じている。

委員C：定時制を卒業して終わりではなく、本校定時制を卒業して活躍している卒業生も多くその意味では、本校が1つのステップになればいいと思う。

※ 資料3-2長期欠席者の扱いについても議題にあがった。

長期について明確な定義はないが、授業料があった時代には授業料の未納が発生して数年連絡が取れなければ、長期欠席として扱われていたようである。